

用ひた着付で、平裏斗目・織裏斗目・無地裏斗目の種類がある。厚地の絹で、織色に染め、五所に家紋を着け、腰廻り及び袂を白くした中に別色の織交ぜとしたものであるが、無地裏斗目ではその織交ぜがない。

ノジリゴトウダ 野尻後藤太 大聖寺藩士。字は子春、諱は榮滋。實は杉山虚叟の次男で、和漢の學に達した。野尻氏は藩祖前田利治以來の家柄で、初代は四百石を食み、子孫代々藩政に參與したが、後藤太の時は二百七十石であつた。文政五年十二月五十七歳を以て歿。

ノジリナホヒロ 野尻直啓 通稱次郎左衛門・四郎左衛門。田中知顯に和歌を學んで、その高弟であつた。明和七年知顯の越中五ヶ山に流されるや、藩その蔵書を悉く直啓に與へたので、爾後田中氏に代つて歌學の牛耳を執つた。直啓は本組與力に屬し、百五十石を領したが、天明五年十月組外に墜り、寛政の頃學校の歌學教師となり、文化八年十月五十石を加へ、十四年歿した。

ノシロ 野代 石川郡横江郷に屬する部落。ノシロゴウ 苗代郷 能美郡に屬する。藩政時代では、勘定・吉竹・本江・千木野・南淺井・北淺井・大領中・清六・不動島・小寺・園・上小松の十三ヶ村を含み、外に小松町の一部もこの郷内の地であつた。

ノシロシヨウ 野代庄 能美郡に在つた。永祿五年四月の文書に、南北白江庄・本折村・吉武村・野代庄が、今まで西郡某の知行分であつたのを、子細あつて一圓幕府の料所にしたと見える。

ノシロヤトウガ 野代谷桃芽 通稱徳次郎。家世々金澤小立野に在つて藏宿を業とした。

嘉永三年生。初號を桃守といひ、明治の初大坂に登つて俳諧を五木庵潮水に學び、歸國の後小春庵五代を襲いだ。蓋しこの地に於ける舊派宗匠の最後のものである。昭和に入り、八十餘歳を以て京都に歿した。

ノセ 能瀬 石川郡下福増の内の小字。ノセガハ 能瀬川 河北郡與津・中山・御門等の溪流を合はせ、上流では與津川・矢田川・種谷川等といひ、能瀬を経て河北潟に入る。流糧一〇軒。

ノセゲンチク 野勢玄竹 藩の外科醫で、百五十石を領し、元祿七年歿した。子玄徳は遺知を襲ぎ、享保四年歿。後玄達・玄竹頼薫・玄竹・求伯等相繼ぐ。

ノソキ 硯 石川郡上辰巳の内の小字。ノダ 野田 江沼郡北濱に屬する部落。茨惣紀聞に、この村領の畑の中に、高さ六七尺で七八尺四方の平かな石のあるのを塔の臺といひ、寺屋敷の跡で、今に多く古瓦を出すと記してゐる。

ノタ 野田 鳳至郡西脇の内の小字。ノタ 野田 鳳至郡南志見郷に屬する部落。ノタ 野田 能美郡德橋郷に屬する部落。ノタ 野田 石川郡富樫庄に屬する部落。

ノダ 野田 羽咋郡寶達内の小字。ノダ 野田 鳳至郡北七海の内の小字。ノダオウカン 野田往還 金澤から石川郡野田山に連絡する道路。三壘記に、天和二年の頃龍興右衛門を石川・河北兩郡の裁許に命ぜられた時、野田山の道筋は國祖の墓所へ參

詣するもの、往還であるから、寺町の端から並木に小松を植ゑさせたとある。ノダカンザエモン 野田勘左衛門 初めて前田利常に仕へて百五十石を領し、萬治元年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ノダゲンジヨウ 野田玄常 大聖寺藩醫。諱は寛徳、字は子厚、巽山と號し、玄常はその通稱である。弱冠京に入つて醫を中西深齋に學び、又經史を皆川洪園に習ひ、遂に郷に歸つて侯の侍醫となつた。天保四年二月十六日歿、齡六十四。

ノダテラマチ 野田寺町 金澤の町名。元和二年古寺町等に在つた寺院を泉野に移し、之を泉野寺町というたが、元祿以前から泉野寺町のうち野田筋なるを野田寺町、鶴來筋なるを泉寺町と私稱し、明治四年四月戸籍編成の際この私稱を本名とすることとなつた。

ノタニシヨシヤマ 野谷莊司山 石川郡中、川の上流なる瓢箪谷の東に在つて、飛騨大野郡の境に跨る。高さ一七九三米。地質石英粗面岩。ノダミチババ 野田道馬場 金澤郊外野田往還に道路に添うて遠乗馬場があつた。元和二年に初るといふ。

ノダヤマ 野田山 石川郡に屬し、金澤郊外の山。高さ一七六米。地質第三紀層。昔は野端山とも野端松山ともいふた。しかし、前田利家の遺誠に『我等煩彌爾々無之候。間近被存候。相果候は長持へ入、金澤へ下し、野田山に塚をつかせ可被申候。』とあり、又年不詳七月十三日附前田利長の書に、『のだ山下がりなど、寺(桃雲寺)へ御取候やうに可申候。』とあるから、野田山といふことも古い。

利家以後金澤の士民多くこゝに墓地を選び、毎年盂蘭盆の際には、高祿の者の墓前に假屋を設けて香華を備へ、番所に幕を張つて貴賤の參詣を制し、夜は切籠に點燈せられて一山晝を欺くばかりであつた。

ノツチジンジャ 野岐神社 河北郡神谷内に在り、附近に毘沙門川が流れる。式内等舊社記に、『野岐神社。式内一座。小坂庄内神谷内村鎮座。祭神野槿神。今爲事代主神。稱毘沙門天。蓋有異説』とある。神名帳に之を野岐神社に作り、傍訓にノカとするは誤で、野槿は古事記の野槿、日本書紀の野槿で、草野姫の一名である。倭漢三才圖會にはこの社を上谷明神とする。當社の境内に翁塚があるが、文字の未端風化してゐるのを、最近『芭蕉翁うらやまし浮世の北の山ざくら。寶曆壬午仲春下流。金府半化坊。』と判讀せられた。半化坊は關更である。

ノツチジンジャ 野岐神社 河北郡の式内社。大日本史には、苅安に在つて野々宮と稱し、草野姫神一名野槿神を祭るとある。この野々宮は式内等舊社記にも一郷の惣社なりと記し、今笠野神社と稱するものに當る。式の神名帳には本郡に野岐神社が二社あるから、神谷内のものと共に、これもその一つであらう。

ノテラ 野寺 羽咋郡押水大海庄にある部落。ノテラガハ 野寺川 羽咋郡寶達山の内南谷から流出し、八野領で大海川に落合ふ。流程五軒許。

ノト 能登 能登の國名は郡名より起り、尙古くは國造の管理する行政區劃の名稱であ

らう。